

## 5. 石巻市立大原小学校子ども支援

◎参加人数 26名

### ◎活動報告

2011年3月、東日本大震災が起きました。宮城県ではたくさんの被害があり、まだまだ復興の途中です。石巻市の牡鹿半島の海沿いにある大原小学校への支援は今年で3年が経ちました。この学校がある大原浜一帯は、津波によって壊滅的な打撃を受け、高台に建っていた小学校のみが流されずに残りました。それまで大原浜に住んでいた方々は、遠くの仮設住宅での生活を余儀なくされました。被災からもうすぐ4年を迎える今でも、児童の約半数が仮設住宅からバス通学をしています。

この学校は石巻市街と比べて交通の便が良いとは言えず、継続的な支援が受けづらい状況にあります。同じ宮城県にいる私たちだからこそ継続する意味があると考え、震災前の日常生活が取り戻せるよう活動してきました。

今年度も日常的な支援として、昨年度までと同様に平日の学校で子どもたちと一緒に過ごして勉強や遊びのサポートをしました。さらに、イベント型の支援として小学校の教頭先生から食育学習の授業の依頼を受け、学生がサポートをしつつ食品栄養学科の丹野久美子先生が出張授業を行いました。1～2年生は食育すごろくを行い、「ごはんを食べて歯磨きをしなかったので、体育館を1周走る」や「おやつを食べすぎたので、フラフープを10回まわす」等といった運動につなげた遊び感覚の授業をしました。小学生と大学生でペアを作り、一緒に行動をすることでコミュニケーションもとりやすく、楽しんで学ぶことができました。3年生以上では、好きなお菓子を選び、そのエネルギーの半分に相当する運動を10分間で行う、こちらがゲーム感覚の授業をしました。10分間でどの運動を何分するか組み合わせを計算することで算数の勉強にもなり、自分たちが選んだ運動が予想以上に疲れるものだと知ることで、

おやつや間食についても一度見直すことができた授業でした。これはグループごとの活動でしたが、学生が1グループに1人ついて一緒に考えたり運動したりすることでともに楽しみ、子どもたちに共感することができました。どちらの授業でも、最後に子どもたちが自身でわかったこと、思ったこと、これからどうしていきたいか等の気持ちを言葉にして発表したことで、本人たちも食についてじっくり考え、私たちも彼らの本心を聞くことができました。また、普段学校でしか接しない子どもたちの家庭の様子も少し垣間見ることができたように思います。

私は大原小学校に3年間通っていますが、急激に顔や体型がふっくらしてきたり、何人か肥満の可能性があるのかなと予想できたりする子どももいます。仮設住宅で生活することで運動量が減る、家庭環境や地域特性等、様々考えられることはありますが、子どもたちのニーズに合った支援ができたと思います。

さらに、2月末には、音楽科の菊地恭江先生と学生による弦楽器演奏会も行いました。大原小学校への支援は今年で3年目の活動ですが、こうして毎年の恒例行事のように演奏会が開けることは、先輩たちの代から支援を受け継ぎ、継続して通うことで大原小学校の先生方や子どもたちと信頼関係を築くことができってきたからであり、嬉しく思います。

全校児童21名の中には学年や性別、性格によって、学生があまり踏み込めない児童や対応するのが困難であった児童がいます。私たちは「教員」ではないため、児童の詳しい情報や事情については、子どもたちが自ら話してくれるまで知ることができません。「この子はどうしても暴力をふるうのだろうか、どうしても暴言を吐くのだろうか」と思っている、ただただいつも受け止めることしかできませんでした。それでも、1年、2年……と月日が経つにつれて、子どもたちの体格も表情も変わり、子どもたちが自分のことを話す時間が少しずつ増えてきました。こ

## 5. 石巻市立大原小学校子ども支援

の活動を通して、継続することがどれだけ大切なことか実感しました。

今年度の活動は、3月末で27人となります。食品栄養学科の4年生が中心的に活動しており、来年度からの活動を引き継いでくれるよう後輩たちに呼びかけたり、活動の魅力を伝えたりする活動にも力を注ぎました。1年目は本当に支援に来て良いのか、迷惑ではないかと不安であったのですが、今では大原小学校の子どもたちや先生方から「ぜひ来てください」と言ってもらえる活動になりました。来年度からもぜひ引き継いで支援してほしいと思います。



食育の授業の様子。どの運動をすればエネルギーを消費できるか作成会議中です。



祖父母参観の1コマ。大学生も一緒に参加させていただきました。



弦楽器体験の様子。その場で一緒に演奏します。